

## ① 関上訪問記(2015.06.04)

これまで関上を実際に訪れることないままに、ひたすら文献調査をしてきた。調べるほどに、資料の中でしか見たことのない関上の地を実際に見てみたいという気持ちがいっそう高まった。

2015年6月4日、ようやく、関上の復興の様子を知ることができる場所や、自分たちが調べてきた場所を訪れることができた。以下、見学した場所についての感想である。

お忙しい中、お時間を割いて案内くださった名取市職員の方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



## ○仮設工業団地(根本)

- 仮設の形ではあるが、水産業や商業が、まちの再生のきっかけになっていることを知りました。多くの業所が、復興に向けていち早く行動していて、今後の関上地区の活性化につながっていくのだろうなどと思った。

## ○多賀神社(平野)

- 「論社」と呼ばれていた東多賀神社。名取・関上の神社について調べてきて実際に訪れたい場所の一つだったので、感慨深かった。御神門に白い馬が安置されており、なぜ馬なのか多賀神社とどのように関与しているのかということが気になったので、また自分が調べてきてないことが出てきたなあと思いつつも、調べ甲斐があつていっそう興味が沸いた。



## ○ハウス群や民家(車窓)(横山)

- 津波被害がなかった高柳周辺には、バラやカーネーションのハウスが立ち並んでいた。住宅がほとんど残されていなかった沿岸部とは随分違った景色だった。関上の人たちの中にはこの地で新しい生活を始める人もいらつしやるといふ。また、関上でも僅かに残っている住宅もあり、住んでいる方もいらつしやった。

## ○関上中学校(蛭名)

- 地震が来たときの時刻のまま時計が止まっていたり、校舎内に残った津波痕が当時のむごさを表していた。屋上から関上の町並みを見て、震災前と違って本当に何もなくて、前と違う関上ってというのは少し寂しいけど、これからどんどん始まる関上のまちづくりに期待したい。

## ② 関上訪問記(2015.06.04)

## ○貞山運河(車窓)(古里)

- 初めて目にして、広くなだらかな印象をうけた。震災前の写真では船が沢山あったが、震災後はやはりそれはなく、運河がとても静かなものを感じた。

## ○日和山(湊神社・富主姫神社)

- 日和山では、山頂の湊神社と富主姫神社、また、麓にある石碑などを見て回った。今まで神社について調べてきて、実際にみる事が出来てよかったと思うと同時に、日和山からみえるまだ大部分が更地の景色をみて少なからず衝撃を受けた。(平野)



- 震災で流失した湊神社、富主姫神社は標高約8mの日和山の山頂に再興されていた。震災時は山頂を2m以上越える大津波が襲ったとうかがい、実際現地を踏んでみて、想像を超える高い津波が来たという現実少し恐ろしい印象をうけた。後ろ方面にあった昭和三陸津波を受けてつくられた「地震があつたら津波の用心」の石碑も印象的だった。(古里)



## ○朝市・メイプル館(車窓)(横山)

- お休みの日の訪問だったため、車窓から眺めるのみだったが、関上朝市には毎週日曜日に沢山の方が来るそうで、賑やかな様子が想像でき、行ってみたいとなった。また、カナダからの支援で建てられたメイプル館の中にはカフェもあるそうで、色々な楽しみ方が出来そうだと考えた。



## ○東禅寺、観音寺跡(車窓)(古里)

- 跡地の横を通っていた。跡形もなく、当時のことを忍ぶ手がかりもなく、何とも言えない寂しい光景だった。これから再建される町に両寺で催された大回向のような行事が再開されるのか、そんな様子を想像するのみだった。

## ○あんどん松(車窓)(蛭名)

- あんどん松がある通りは、祖母が住んでいたころの近所だったため、とても懐かしかった。震災前よりも数が減ってしまった気がするが、あんな大津波がきても未だにたく根付いていて、強く頼もしいと思った。これからはもたずとそのまま頼もしいあんどん松でいて欲しい。

## ○まとめ(根本)

- 復興に向けて進んでいる部分と、今なお、3.11の時に被害にあったままの場所があり、再建の進み具合に差があることを痛感した。これまで歴史を調べたので、古い町並みを想像しながら訪問したが、関上中の屋上から見た津波の爪痕残る平地と、盛り土作業が進められている様子を目にした時は言葉を失った。震災前の関上地区を見たことはないが、象徴でもあるあんどん松がもつと多く、海の近くにそびえたつ風景はきつと素敵だったに違いないと想像した。将来の土地利用計画案についてもお話を伺い、復興への歩みが続けられているのを知った。完全に元通りの生活に戻ることは難しいかもしれないが、この土地に、新しい家や学校が建てられ、人が住み、新しい生活が始まる日が早く訪れるといいなどと思う。学生の立場からでも復興のお役に立てることが何かあればいいと思う。